

黒田節

福岡県民謡

□□□□

酒は飲め飲め 飲むならば
日(ひ)の本(もと)一の
この槍(やり)を
飲みとるほどに 飲むならば
これぞまことの 黒田武士

峰(みね)の嵐か 松風か
訪(たず)ぬる人の 琴の音(ね)か
駒をひきとめ 立ち寄れば
爪音(つまおと)高き 想夫恋(そうふれん)

春の弥生(やよい)の あけぼのに
四方(よも)の山辺を 見渡せば
花のさかりも 白雲の
かゝらぬ峰こそ なかりけれ

花たちばなも 匂うなり
軒(のき)の菖蒲(あやめ)も かおるなり
夕暮れ前の 五月雨(さみだれ)に
山ほととぎす 名のりして

1.
酒は飲め飲め
飲むならば
日(ひ)の本(もと)一の
この槍(やり)を
飲みとるほどに
飲むならば
これぞまことの
黒田武士

名槍日本號

〈松口月城〉

美酒元來 吾が好む所

(びしゅがんらい わがこのむところ)

斗杯傾け盡くして 人驚倒

(とはいかたむけつくして ひときぼうとう)

古謠一曲 藝城の中

(こやういくしきよく げいじょうのなち)

呑み取る名槍日本號

(のみとるめいそう にっぽんごう)

2.

峰(みね)の嵐か

松風か

訪(たず)ぬる人の

琴の音(ね)か

駒をひきとめ

立ち寄れば

爪音(つまおと)高(たか)の

想夫恋(そうふうれん)

3.

春の弥生（やよい）の
あけぼのに
四方（よも）の山辺を
見渡せば
花のさかりも
白雲の
かゝらぬ峰こそ
なかりけれ





4.

花たちばなも

匂うなり

軒(のき)の菖蒲(あやめ)も

かおるなり

夕暮れ前の

五月雨(さみだれ)に

山ほととぎす

名のらして